**第3学年2組　音楽科学習指導案**

**1　題材名**せんりつのとくちょうをかんじとろう

**2　題材について**

本題材は、主に小学校学習指導要領解説音楽編　A表現（1）歌唱 　イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」、　エ「お互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」、（2）器楽　イ「曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。」、　エ「互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。」B鑑賞（1）ア「曲想とその変化を感じ取って聴くこと。」、に関連している。本題材では、児童が旋律の特徴を感じ取りながら、曲想の変化を感じ取って聴いたり、曲想にふさわしい表現を工夫したりすることをねらいとしている。

　　　本学級の児童は、明るく元気な児童が多い。音楽の学習に対しても意欲的に取り組み、明るい雰囲気の中で大きな声でのびのびと歌ったり、演奏したりしている。時には教え合って演奏するなどと、互いに高め合いながら活動する姿が見られる。その一方で、旋律の特徴や楽曲のまとまりを感じ取り、曲想に合った表現の工夫をすることに課題が見られる。

　　　本題材では、旋律やリズムの特徴を生かし、曲想とその変化を感じ取ることによって表現の工夫を行う。そのために、音の上がり下がりやリズムに着目し、旋律の特徴の違いを明確にすることによって、楽曲に対する理解を深め、曲想にふさわしい表現を工夫していく。また、違う高さの音の重なりに耳を傾けることによって、音の響きを感じとり、演奏することの楽しさをより味わうことができるようにする。

**3　題材の目標**

　○旋律の特徴を感じ取りながら、曲想とその変化を感じ取って聴いたり、楽曲を聴いて感じ取ったことを言葉で表したりするなどして、楽曲の特徴のよさに気付くようにする。

　○旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする。

**4　教材の選択**（◎は本時で扱う教材）

　○「あの雲のように」（歌唱・器楽）作詞　芙龍明子　作曲者　不明　編曲　飯沼信義

　　　ドイツ歌曲を原曲とする、ゆったりとした3拍子の曲である。順次進行の旋律が特徴的であり、曲想を感じ取って表現の工夫をさせたい。また、リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏することによって、音色の変化や音の重なりを感じとるのに適した教材である。

　○「メヌエット」（鑑賞）作曲　ベートーベン

　　　ABAの3部形式。3拍子のフランスの踊りの音楽である。バイオリンとピアノによる旋律の特徴、リズムの違いがはっきりしており、曲想の変化を感じ取って鑑賞するのに適した教材である。

　◎「山のポルカ」（楽器演奏）チェコ民謡　編曲　岡部栄彦

　　　ABAの三部形式。8分音符を中心としてつくられているアの部分と、4分音符と2分音符でつくられた滑らかな印象のイの違いが明確である。旋律の特徴の違いや、音の重なりを感じ取って演奏を工夫するのに適した教材である。

　○「ふじ山」（歌唱）文部省唱歌　作詞　巌谷小波

　　　日本の象徴的な山である富士山の雄大さを歌った曲である。歌詞の表す情景を想像して表現を工夫したり、曲の山の盛り上げ方を工夫したりして歌うのに適した教材である。

**5　本題材で主に取り扱う〔共通事項〕と学習の関わり**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 〔共通事項〕ア | 旋律 | 音の重なり | 変化 |
| 主な学習活動 | ・旋律やリズムの特徴の違いを感じ取って聴いたり、表現を工夫したりする。 | ・違う高さの音が重なり合うことによる響きを感じて演奏する。 | ・曲想の変化を感じ取って聴いたり、表現を工夫したりする。 |

**6　題材の指導計画**（9時間扱い）

　・「あの雲のように」を歌詞唱する。　　　　・・・・3時間

　・「メヌエット」を鑑賞する。　　　　　　　・・・・1時間

　・「山のポルカ」をリコーダーで演奏する。　・・・・4時間（本時2/4）

　・「ふじ山」を歌詞唱する。　　　　　　　　・・・・1時間

**７　指導と評価の計画**

(1)目標

　 ○友達の楽器の音を聴きながら演奏し、音の重なりによる響きを味わうようにする。

(2)本時で扱う〔共通事項〕：ア　旋律　音の重なり　変化

(3)展開（2/4時）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習内容・学習活動 | 内は学習活動に即した評価規準  指導上の留意点（・）　評価方法【　】 | 時間 |
| 1. 学習の雰囲気をつくる。   　・「山のポルカ」のアの部分を階名唱、リコーダーで演奏する。  　・同じ音をタンギングして吹き、リレー奏する。  2　「山のポルカ」のイ前半を練習する。  　・ファとミの運指を確認する。  　・2パート、1パートの順に演奏する。  　・階名唱をする。  　・全体で演奏する。  　・1と3の川、2と4の川で演奏する。  　・男女に分かれて演奏する。  4　イの1パートと2パートを全体で合わせて演奏する。  　・1と2の川、3と4の川毎に、それぞれでパートを分けて演奏し、聴きあう。  4　本時のまとめをする。  　・録音を聴く。  　・感想を発表する。  　・次回の授業内容を知る。 | ・本時扱うイと旋律の特徴や雰囲気の違いを感じ取ることができるように、アの部分を階名唱、リコーダーで演奏するようにする。  ・リレー奏することで、緊張感の中で演奏する機会に触れるとともに、タンギングの定着度合いを確かめることができるようにする。  ・次の活動をスムーズに行うために、楽譜を見て、音名を確認するようにする。  ・児童は、まだファとミの演奏に慣れていないことが予想されるため、ファとミの運指を確認するようにする。  ・2パートはファとミで構成されているため、2パートから演奏するようにする。  ・音符を読むことが苦手な児童への配慮として、ホワイトボードにフラッシュカードを掲示しておく。  ・リコーダーの演奏に取り組みやすくするために、階名唱をするようにする。  ・正しい音やリズムで演奏することができるように、教師の範奏に続いて演奏するようにする。  ・常に近くの児童が演奏している環境をつくるために、1と3の川、2と4の川に分けたり、男女で分けたりして演奏するようにする。  ・姿勢、呼吸については、適宜指導を行い、音色作りを行うようにする。  ・1回目は伴奏なしで演奏することによって、リコーダーの音色のみでの音の重なりを感じ取ることができるようにする。  ・2回目は伴奏に合わせて演奏することによって、伴奏も含めた曲の雰囲気を感じ取ることができるようにする。  ・1と2の川、3と4の川毎に演奏し、聴き合うことで、生の音の重なりを感じ取ることができるようにする。  ・タブレット端末を用いて録音をすることで、まとめの際に振り返ることができるようにする。  ○音楽への関心・意欲・態度【発言や演奏聴取】  　友達の楽器の音を聴きながら演奏し、音の重なりによる響きを味わっている。  ・児童の気付きを明確にするために、録音を聴き、2つのパートに分かれて、違う高さの音を重ねて演奏した感想を発表するようにする。  ・次回予告を行う。 | 10’  20’  10’  5’ |

**8　備考**在籍児童数　35名